

【図書館から交流型図書館へ機能拡大】

■伊賀市が目指す交流型図書館

◎忍者・芭蕉・文化・観光・市民活動等

情報発信拠点及び総合的ガイダンスとしての活用拡充

◎市内外の図書館利用者が増えることによる賑わいの創出

◎学校図書館との連携による子ども読書活動支援の拡大

◎若者、子育て世代、高齢者他

あらゆる方が世代間交流できる空間の創出

◎若者定着を見据え、中心市街地の教育機関が集結するエリアでの学習の場の提供



- ・図書館は、単に本を貸し借りするだけの場所ではありません。
- ・図書館は、これまで同様の学びの場としての利用だけでなく、市民のあらゆる「知りたい」ことを調べられる情報拠点であり、子育てや介護など多様な生活課題や仕事上の課題など、日々の生活の中で必要となる課題解決情報を提供することができます。
- ・本を通じて、人と情報、人と人、人と活動の交流を生み、人が出逢うことで、有意義な時間をゆったりと過ごす「居場所」としての機能を担います。
- ・新たな情報や人に出逢い、繋がることで、グループとしての学習や活動に発展するなど、幅広い世代が交流できる場所として活用することができます。
- ・子どもや学生のための学習の場を充実し、子育て世代が日常的に情報交換できる場を提供します。
- ・学生のみならず、ビジネスマンにとっても学習できる場を充実させます。
- ・伊賀市の歴史や文化に関する多くの所蔵資料情報についてのレファレンス体制を強化しつつ、複合施設としての強みを生かし、観光客へも提供するなど、これまで以上に有効的な活用連携を可能にします。
- ・開館時間を午後9時まで延長することや、設置場所が公共交通機関に近いことで、迎えや待ち時間にも図書館へ寄っていただけるなど、日常的な交流の場となり、市内外の利用者の市街地への移動促進など、賑わいの拠点機能を担います。

